留学生、日本企業で働く(１)

マレーシア　L.C

まず

僕は 2000 年 4 月 5 日に来日しましたので、早くもこの 4 月で丸 6 年がたち、7 年目に突入しました。来日後、1 年間日本語教育を受け 4 年間の理系学部を卒業して去年 4 月に某玩具メーカーに就職しました。

キーボッツ

プリモプエルオーケストラ

インターンシップ

大学 3 年の夏に大学院か就職かの進路で迷い、最近流行っているインターンシップをやることに決めました。今の会社と某保険会社のインターンシップに参加させてもらいなんとなく働くということ、日本の会社の仕組みが分かるような気がしました。そして楽しいことをやりながら稼げるのが一番自分に合ったライフスタイルかと思い‘まずやってみよう！やるんだったら面白く！そこまでやるか！“をスローガンにする今の会社に内定をもらいました。

いよいよ入社

入社して 3 週間の研修を毎日同期と遊びながら楽しく過ごし、自分の希望でもあった営業職に配属されました。外国人が日本で働く場合、国際業務など英語を使う仕事が多いと聞いていましたが、僕はそのような業務は望んでいませんでした。せっかく日本に留学して日本の社会、文化をより理解するために、一般日本人がやる業務ができない以上日本で働く意味がないという過激な考えを持っていますので。

営業に配属

担当した女児玩具

　そんなわがままも聞いてもらい都内百貨店の女児玩具の営業になりました。希望が叶って嬉しいと同時に、大変な生活が始まりました。就業時間は９時からですが、新人は毎日８時に出社してゴミ捨て、ファックス配りなどの雑務で一日が始まります。電話応対も新人の仕事で、電話が鳴った瞬間に電話を取らないといけないルールもあります。
5 年間も日本にいれば大丈夫かと思いきや、それは全然うまく行きませんでした。
　学校では敬語を使う機会もあまりなく、留学生なのでなんとなく許されていることが多かったのですが、会社の取引先にはそれが通用しません。聞いたこともない社名などで何度も聞き直したら相手に怒られることもありました。突然まだ自分が分かっていない商品の詳細などを聞かれたりなど、応対に困ったことは数え切れないほどありました。

一番の失敗談

イベント風景

　その中でも一番の失敗談を恥ずかしながら、披露させていただきます。
　営業担当は対外の仕事も多く、店頭でイベント実施の提案などをいろいろやらせてもらいました。自分で企画したイベントなど店頭で実際に自分でマイクを持ってやったりもしました。ある日、自分の担当店舗（横浜）でイベント実施予定があり、朝から気合を入れて電車に乗りました。事前の準備はできていたので、安心して電車の中で寝てしまい、
起きたら千葉にいました。なんと違う方向の電車に乗っていたのでした。
更に悪いことに、会社から支給された携帯は、持ってくるのを忘れ、また、先方の電話番号も持っていなかったので、連絡すらできませんでした。結局慌てて電車を乗り換え、着いたときには１時間以上の大遅刻でした。途中で先方から会社の先輩にクレームの電話が入り、僕はその後、大変怒られました。当たり前なことを当たり前のようにすることは、意外と大変だと痛感しました。そのほかにもいろいろありました。担当先とうまく行かなくて上司の前で泣いたこともありましたが、周りの人に支えられて、なんとか１年が過ぎました。

うれしかったこと、受賞

　うちの会社では、１年間の新人研修の集大成として新人プレゼン（プレゼンテーション）大会があります。私は、日本特有の流通制度および現状というテーマで発表しました。玩具業界には意外と古い業界習慣などがまだ残っているのですが、その話題に触れるのは社内でもタブーという雰囲気がありました。発表の準備、情報収集に当たって「やめたほうがいいのでは」と

いう反対の声も多くありましたが、なんとか同期、先輩の支えで無事に発表できて、最優秀賞を頂きました。副社長からは、反対の声に立ち向かってよくやり遂げたと大変褒めていただきました。

まだまだ続く挑戦の日々

1 年間営業をやってやっと楽しめるようになったところに、今回異動の辞令をもらい、この四月から男児玩具の企画、開発の業務担当になりました。営業と違い、物作りを一から勉強します。企画、三面図、金型成型、試作、商品名考案、パッケージ、取扱説明書の原稿作り、プロモーションの為の CM 撮影、雑誌記事掲載、商品 HP 作成、更新などが担当業務になりました。

社会人になって留学生と違う目で日本の社会をみることができ、とてもよかったと思います。自分の成長の為にまだしばらくは日本でいろいろチャレンジする毎日を送りたいと思います。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

東映戦隊３０周年シリーズ

SIC 仮面ライダーヒビキ